

〔6月7日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。
(幼・小1の方は、学年を書かなくてもよい。)

小学2年参考手本

いみら
小二
こいけえり

小池蹊舟先生

幼・小学1年参考手本

さとうひろこ
た

川島舟錦先生

小二
木村るり
メモ

白石和楓先生

小一
いとうなみ
かわ

大町青蓮先生

〔6月7日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小学4年参考手本

小四
江田花子

学校

辻元大雲先生

小学3年参考手本

小三
山本さとみ

小川

工藤永翠先生

小四

山田光一

マロ

字

北村白琉先生

こ子ね

矢田光
小三

大平邑峰先生

〔6月7日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小学6年参考手本

小六 中条優月

労 働

廣瀬舟雲先生

小学5年参考手本

小五 松本好美

野原

名越蒼竹先生

小六 寺部理

七 風 立
ぬ

種谷萬城先生

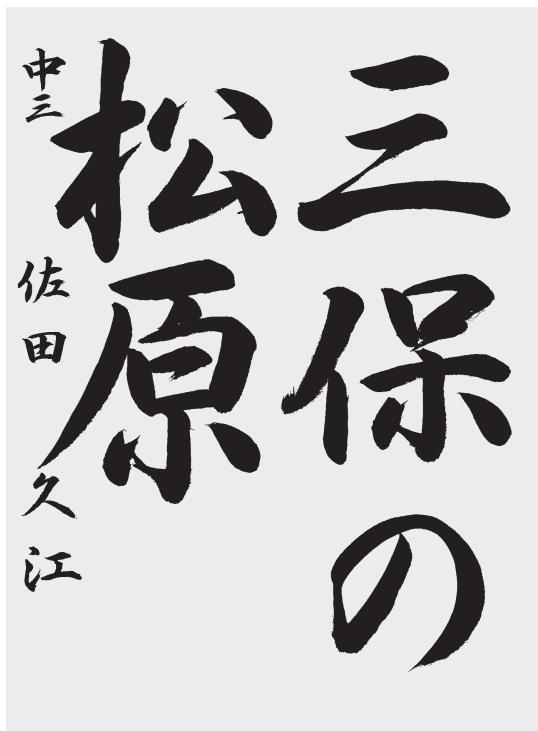
小五 山下知子

早起

片岡豪峰先生

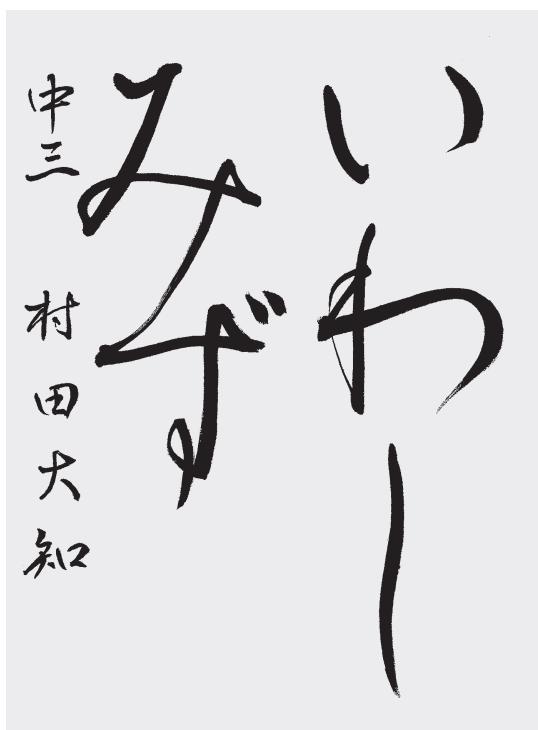
〔6月7日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

中学全学年参考手本（中学生は、どの課題を書いてもかまいません。）



小竹石雲先生

川村美泉先生



石井明子先生



前田龍雲先生

硬筆参考手本

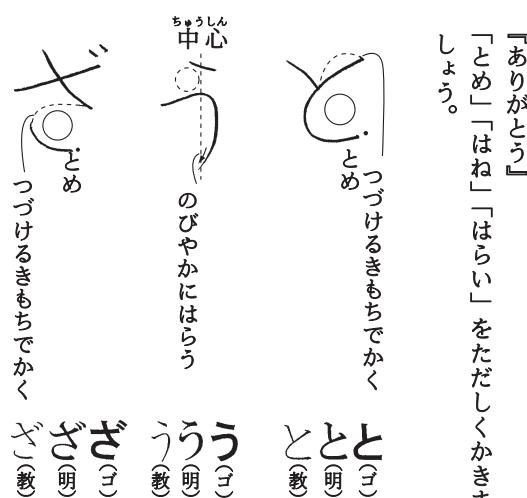
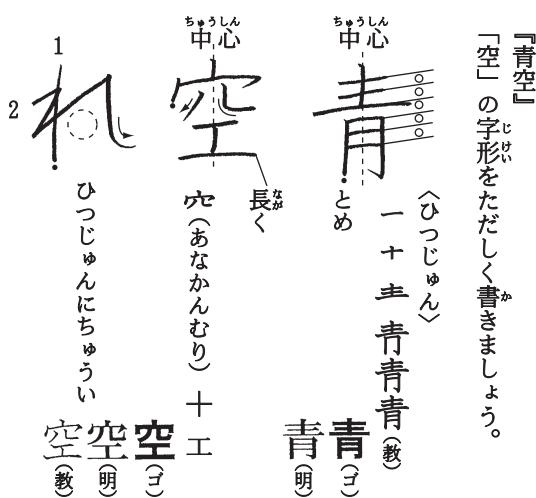
活字と手書き文字の違いに気をつけて書きましょう。ゴシック体(ゴ)・明朝体(明)・教科書体(教)・HGP行書体(H)

『ありがとう』
『とめ』「はね」「はらい」をただしく書きましょう。

しおりにちゅうい

支部名	と	き	ま	あ
段・級	て	よ	し	り
学年	も	う	し	が
名前	きれい	は	す	う
大木友子	で	青	さ	と
	す	空	き	く
	。	が	。	。

支部名	ぎ	い	ま	あ
だん・きゅう	ま	い	り	り
がくねん	し	ま	か	か
一	ま	し	か	か
なまえ	た	し	う	う
すずきけんと	。	。	。	。



[6月7日締切課題] 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

小学4年

小学3年

支部名	を	こ	わ	列
段・級	照	ん	か	を
学年	ら	だ	葉	見
四	し	光	の	つけ
名前	い	が	間	ま
人見加奈	ま	、	から	し
	す	池	差	た
	。	の	し	。
		水		
		面		

支部名	校	庭	で	、
段・級	見	つ	け	、
学年	つけ	ま	し	、
三	ま	し	た	、
名前	水	田	真	広
	田	真	広	。

中心
差
(筆順)
ノ フ ナ ニ ヌ ニ ハ
差
(3) 差
(明)

中心
間
(筆順)
ノ ノ ノ ノ
間
(3) 間
(明)

中心
葉
(筆順)
ノ ノ ノ ノ
葉
(3) 葉
(明)

「水面」
筆順に気をつけて、字形を整えましょう。
四画目が一番長い

- 7 -

「校庭」の字形を正しく書きましょう。
「庭」の長さと「はらい」の方向に
注意。

列	行	庭
（3）	（3）	（3）
列（明）	行（明）	庭（明）
列（教）	行（教）	庭（教）

「へん」が大きい
「行」も「列」も
「へん」と「つくり」のつり
あいに気をつけましょう。
「つくり」が大きい
「へん」が大きい
「行」（3）
「列」（3）
「行」（明）
「列」（明）
「行」（教）
「列」（教）
「行」（3）
「列」（3）
「行」（明）
「列」（明）
「行」（教）
「列」（教）

[6月7日締切課題] 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

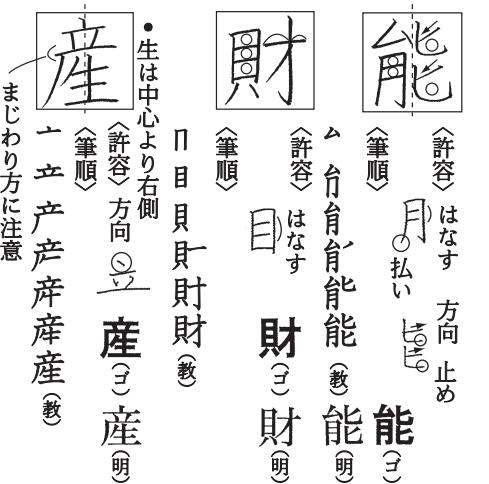
小学6年

小学5年

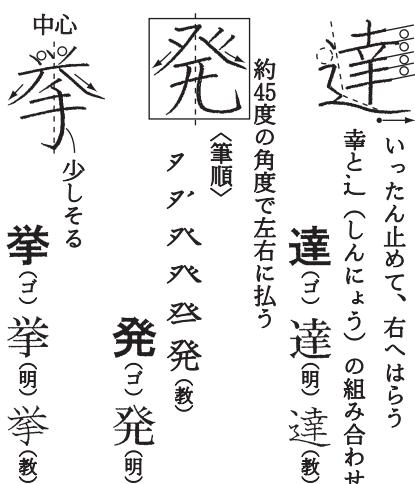
支部名							
段・級							
学年							
六	け つ が れ て い く 。	七 刀 な 心 の 財 産 と し て 受	古 典 芸 能 は 人 々 の 大				
中島 海人							

支部名							
段・級							
学年							
五	げ て 発 言 し ま し た 。	ま る と 、 元 気 に 手 を 挙 。	友 達 は 、 学 級 会 が 始 。				
竹山 結菜							

『古典芸能』
漢字の字形を正しく整えて書きましょう。



『友達』
筆順にしたがって正しく整えて書きましょう。



[6月7日締切課題] 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

中学生(行書)

中学生(楷書)

支部名	
段・級	
学年	
中三	
名前	宮沢賢治が追い求めた理想。
古賀心陽	生き方ができる社会だ。

支部名	宮沢賢治が追い求めた理想。
段・級	生き方ができる社会だ。
学年	中三
名前	古賀心陽
古賀心陽	

間 間
〔ネヘンの行書〕

一 ド ド ド ド
〔筆順〕

・行書のワンポイントアドバイス
行書は、楷書のように、点や画を一つ一つ作るのとは違い、かなり自由で流れのある筆使いの中から点画が形成されます。「間」の字の二種類の行書を書き比べて下さい。

中心
方
追
追^(ヨ) 追^(モ) 追^(カ)
折れてから内側へむかう
〔筆順〕
中心
追
追^(ヨ) 追^(モ) 追^(カ)
ノ 戸 各 各 追^(カ)
〔筆順〕

『宮沢賢治』
漢字よりひらがなを少し小さく書きましょう。
この右払いの上部はあける

これからのおと題

令和5年7月号～12月号までの作品締切日と毛筆課題

小 5	い う い て み よ う 。 自 分 の 体 験 と

幼・小1	に い き ま し た 。

小 6	は 、 文 章 と め る こ と が 大 切 。

小 2	広 い 海 に く ら す 、

中学生	現 代 は ホ ー ム ペ ー ジ を 作 成 し 、

小 3	町 た ん け ん で 地 図

小 4	そ ん な で で は 遊 、 お 元 気 で 。

7月号の硬筆課題 ※硬筆課題は、翌月課題のみ掲載しております。

中学生 (全学年共通)	小 6	小 5	小 4	小 3	小 2	幼・小1	締切日
い星に願 みねるもの	祭典 新記録	一直線 登山	元気 外國	ペン 大きい	のぞみ はやい	あ いま	7月9日 7月
担次代を	自在 用意周到	記念の日 粉骨碎身	開始 集中力	実行 湖水	友人 石だん	こおり へちま	8月6日 8月
ふ天の川 渡に横た 荒海や佐	名月 正倉院	朝食 林道	田んぼ 金メダル	ひろば 秋	ひろば ねがい	る つき	9月7日 9月
夕富士 の富士	前代未聞 馬耳東風	一心同体 文徳(九成宮・臨書)	飛ぶ 有名な人	林道 町村	田んぼ 方向	もみじ 虫かご	え 月
がなり がなるなり 法隆寺 がなるなり 柿くえば鐘	達成感 法隆寺	時計 達成感	安全 筆の里	安全 風景	月光 月光	よむ 見る	10月6日 10月
理路整然	吹く 晴耕雨読	詩を書く 曲水(蘭亭序・臨書)	波の音 海岸線	大切 星ふる夜	竹やぶ 千歩	ダム 広がり	は はがお
吹く 見聞れる	楽しい声 絵画	冬ごもり 夕やけ	かもめ つばさ	ふゆ ふゆ			11月6日 11月
							12月4日 12月

書写を知り 学び楽しむ



広瀬舟雲先生

講師の広瀬舟雲先生は、武藏野大学教育学部教育学科・教授、全国大学書写書道教育学会副理事長、(公財)書道芸術院評議員です。著書に「刻された書と石の記憶」、共著に「国語科書写の理論と実践」などがあります。

よくお寺の入口などに、ありがたい言葉が和尚さん等の筆によって書かれ掲示されているのを見かけたことがあると思います。本学は仏教系の大学ですので、正門と北門の両方にこの掲示板があります。これを聖語板とよび、先人の名言・経典の一節・格言・和歌・歌詞など多岐にわたり、キャンパス内に入ろうとする者すべてをお迎えし、また帰ろうとする者を同所で見送る役目も担って立っています。ゆえにキャンパス内に入る者がこれを見た時、心が豊かになるようなものや、心にやさしく時には新しい気づきを促すようなものなどが、学院長など仏教学の先生方が撰文し、月替わりで掲示されています。本学武藏野キャンパスの場合、門に入る時は内側に向かって、帰る時は門の所で「回れ右」をして(聖語板のある方向にむかって)一礼している生徒・学生・職員などの姿をよく見掛けます。実はこれは校門と聖語板を結ぶ直線上のその奥に位置する講堂の「お名号」に向かって敬意と、今日も無事に過ごせたことへの感謝の意を表しているのです。

現在の聖語板は、その周囲や脚部全体がしっかりとした銀色のアルミ製で、正面の扉には厚いガラスがはめ込まれ、ここから文字が揮毫されたパネルが見られるように作られた陳列ケースとなっています。そして美術館の野外展示のごとく夕方からはライトアップされます。その中に入れられた畳より大きな黒いプラスチック製パネルに、白い文字が揮毫されています。このパネルは取り外すことができ、ここに白いボ

スターカラーを用いて揮毫するのです。この聖語板に記されたことは、毎月一日に新しい言葉となることが慣習となっています。四月は毎年、文学部日本文学科の初代主任教授であった土岐善磨(昭和40年(80歳)から昭和57年(98歳)まで十八年間本学で教鞭をとらされました)の「ここに学ぶとはじめて立ちし校庭の花の四月の初心忘るべからず」という短歌と決まっています。

私は、過去に六年間揮毫担当を務めたことがあります。今回久しぶりに三ヶ月間ピンチヒッターとして、きちんと読めて、かつ見る人が元気になるような書をと思いつつ揮毫しました。絵の具の濃さと線の太細・文字の配置に苦心しました。

中学三年生の書写では「身の回りの書」が扱われます。鑑賞するとともに作者の意図が感じ取れるようになつてほしいと思います。(つづく)



今月のホープ



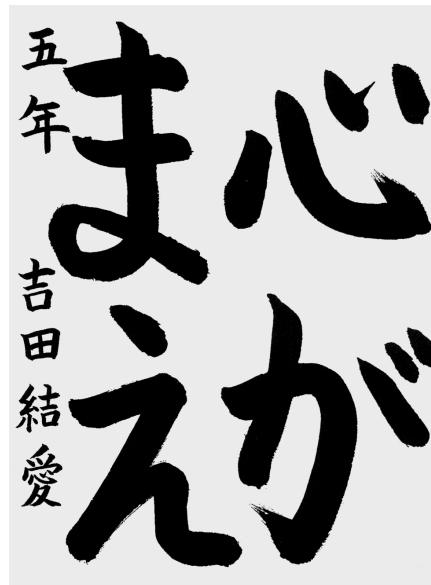
中二 熊代紗羽（光峰）

まず豊かな気持ちにさせられる作品です。字形のみならず筆圧の加減やリズムが麗しく、品格がじみ出ています。

支部名	正華
段・級	
学年	六
氏名	江畑侑奈
説得力のある発表をするために準備をしました。	

小六 江畑侑奈（正華会）

漢字、ひらがな共に始筆、終筆が大変しっかり書けています。それと共に字形がよく整っています。秀逸です。



五年 吉田結愛

字形が確かに、一点一画ていねいで心に亂れなき作品になりました。氏名まで気をぬかず、見事に仕上げました。

支部名	
段・級	
学年	四
氏名	渡 花憐
先生は手を高くあげた人を、指名して意見を聞きました。	

一字一字丁寧で力強く堂々とされています。のびのびした運筆で、スケールの大きな作品見事です。

小五 吉田結愛（昌水書院）

小四 渡 花憐（竹の子書教室）



りゅうてきげきだ
「龍笛擊囃」

今後は、先達の作品品目に学び、書道芸術院の発展と後進の育成にさらに尽力してまいります。

から連絡をいただいた時は、何生だにしないことで後藤大峰先生のことか理解できず、しばらくは地に足が着かない夢心地でい

さうだいたいの時、何となく、これが最後の一一番上の賞なんだろなーなどと思つてしましました。それが何と、今日は春華賞です！予想

御礼申し上げます。
院展では、「記念賞」を60回
と65回展、75回展の3回いだた
く、

だい
第76回書道芸術展においで、榮えある「春華賞」をいただき、選出してくださった

書道芸術院春華賞



篆刻·刻字部



吉田
惠弦

書道芸術院大賞



前衛書部
吉田 恵 株

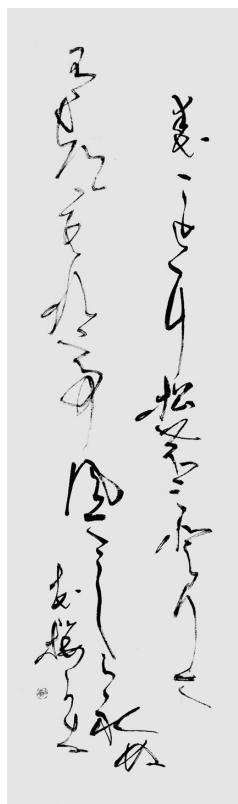
この度、歴史と伝統を誇る第76回書道芸術院展において、栄誉ある「大賞」を賜りました。感謝の意で、これまでの経験をもとに、これまで以上に努力して、腕が伸びる所まで頑張ります。どうぞよろしくお願いします。

家族の支えのお陰と厚く御礼申し上げます。
振り返つてみますと、9歳から書道教室に通い、伊藤香寿先生、幸一先生に書の基礎を学び、社会人になってからは、長井四枝先生に前衛書の楽葉蒼玄先生に前衛書の奥深さ等、多岐にわたるご指導を頂いております。受賞作品「スパイラル」は墨色で、より静寂と躍動感を表現し、連鎖的な変化の中に奥行きと広がりのある造形を目指しました。
以後も古典に立脚し深めながら、書友と切磋琢磨して前衛書等の書芸を極められるよう精進して参ります。

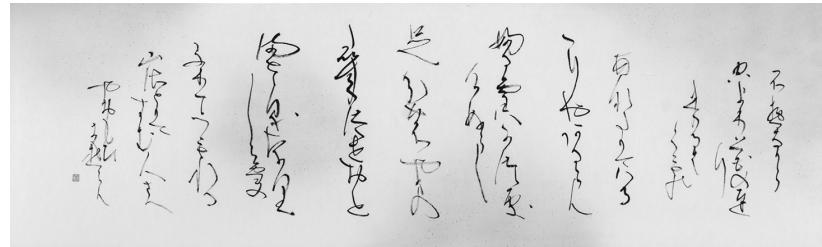
△編集部より▽
二月に全国学生書道展と一緒に
に行われた大人の展覧会上位
作品です。

第76回
書道芸術院展

書道芸術院準大賞



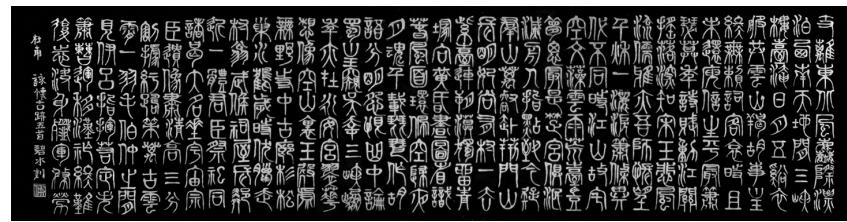
「春ごとに」



「冬ながら」

徳永美恵子

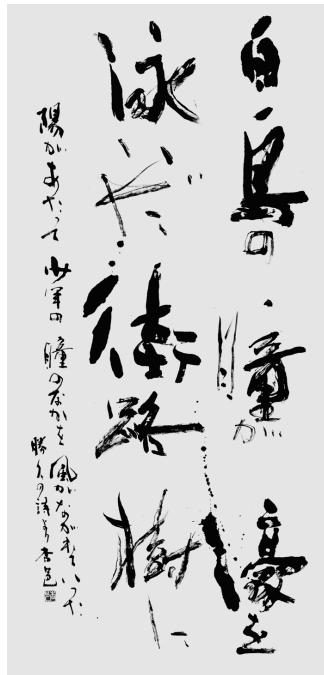
富澤
白雲



「詠懷古跡五首」

伊藤
碧水

「旅」



斎藤
杏邑



「開」

上岡まゆみ

令和		
年	月	日

◇ 登録用紙 ◇

団体番号		支部名		先生名	
------	--	-----	--	-----	--

※氏名を楷書で記入してください。

※毎月15日までに登録された方は次月から出品可能です。

※退会の処理は年2回の昇級試験時に手続きをお願いいたします。

※3月に登録される時は、備考欄に新学年を記入してください。

※現在の学年を明記してください。



氏 名	ふりがな	学 年			備 考
		幼	小	中	

◇ 部数変更届 ◇

現 在		増 減	合 計
冊	月号から		冊
事務局使用欄			

※部数減の変更は、毎月15日までに

部数増の変更は、いつでも事務局へご連絡下さい。

FAX番号 (03) 3862-1957

※この用紙をコピーして繰り返しお使い下さい。

7月号毛筆参考手本（予告）7月9日締め切り分

幼・1年

あ

さやきまい

いま

小一
みうらゆり

3年

ペン

小三
山田花

2年

みのぞ

よしだりこ

5年

一直線

小五
山本健一

登山

小五
杉本陽

6年

祭典

六年
久永トム

中学

答案

中一
森健一

意到用周

中二
佐藤幸太

星に願いを

中二
岩森豊

いはや

小二
林いくよ

外国

小四
上田久代

元気

小四
田中友子

新録記

小六
小谷勉

くものみね

中三
平田佳子

○今月号より佐藤菜扇先生の後任として書道芸術学生版の編集を担当することになります。この競書誌の前身では、『書の教室』は、和昭和28年（1953年）12月に発行され、平成25年（2013年）4月に『書道芸術学生版』へと誌名を変更し、今月号で通巻834号となります。創刊号に携わった谷悠輝は、その歴史ある競書誌の編集に携わることをとても光栄に思います。これから多くの先生方のご協力を賜りながら、楽しく「書」を学んでいけるような競書誌を目指して頑張っていきたいと思います。どうぞ宜しくお願いします。

○今月のお手本「三保の松原」は、静岡県の三保半島の海岸沿いに約5kmにわたり、約3万本のマツが茂る松林で、富士山を望む景勝地です。富士山は、山そのもののだけではなく、周りにある神社や湖、遺跡など信仰や文化からくる美しいもの、芸術的な文化財を合わせて世界遺産となっています。富士山の眺めが、富士山の構成資産に登録されています。日本には「富士山の構成資産」となっています。富士山信仰の対象と芸術の構成に欠かすことのできない文化遺産がたくさんあります。遠足や修学旅行などで全国各地を観光できるといいですね。（悠輝）

毛筆参考手本